

巻頭のことば

TWInsの挑戦

岡野 光夫

Teruo Okano

東京女子医科大学
名誉教授・特任教授
一般社団法人未来医学研究会 会長

21世紀に入り、先端医療の進展は益々加速している。再生医療、バイオマテリアル、ロボット手術、イメージング、ドラッグデリバリー(標的治療)、胎児手術など先端テクノロジーが医療現場の中に浸透するその速さは目を見張るものがある。20世紀に作り上げて来た医工連携の体制と、新しいタイプの医師・研究者の活躍が着実に進んで来たことによることは間違いない。

未来医学研究会はバイオメディカル・カリキュラム(BMC)の修了生と先端生命医科学系専攻の大学院生、さらにTWInsで研究した教員、学生、研究者、医師が未来の医療のための構想とその実現に向けた研究、技術、体制、医療、産業を議論するために1978年に設立された。その初代会長の桜井靖久先生は、早段階から医学部の中に工学部を作るのが重要であると考えていた。目の前の患者を治す医療にとどまることなく、今、治すことのできない患者のために科学と技術を結集して未来の先端医療を作り出す具体的な活動を提案した。科学技術を医療の中に効果的に利用して行くことにより、新しい診断・治療が大きく進展し、多くの患者を効率よく治療することが期待できる。これにより医療産業が大きく発展し21世紀型の革新医療が具体化される。

私は15年前に桜井靖久先生よりバトンタッチ

した医工連携拠点の推進を、TWInsという早稲田大学との壁なしの施設の実現と協働により新しい研究・教育のための大学院のスタートに繋げた。東京女子医大の長い年月の医工連携の取組みにより、技術基盤と新しいタイプの研究者・医師が大きく飛躍できる施設を目指している。今日、テクノロジーの開発にとどまることなく、グローバルに活躍できる研究者・医師の養成につながるTWInsの活動に対し、世界から大きな評価を受けつつあることは大きな喜びでもある。

BMCは45期が終了し、46期がスタートした。ほぼ半世紀、多くの産業界、学界の医工連携による研究開発のリーダーを作り出すことに挑戦し続けて来ている。さらに、2000年よりスタートした先端生命医科学系専攻の大学院はBMCと同様に多くの逸材を社会に出しており、この領域の更なる発展に貢献してくれるものと信じている。

現状の医療システムの改善・改良を着実に進めて行くことに加えて、欧米でも達成することのできない新しい医療概念や技術の創出に向けた研究開発の体制、施設、研究者・医師作りのユニークな取組みがTWInsの誇るところである。21世紀の新医療という大きな希望の実現の第一歩が始まっている。